



体 協 だ よ り

レッツスポーツひたちなか

ひたちなか市体育協会

URL <http://www.hitachinaka-taikyo.jp/>

発行・編集 ひたちなか市体育協会 広報紙編集委員会 〒311-1292 ひたちなか市和田町 2-1-2-1

ひたちなか市教育委員会事務局 生涯学習課内 電話 029-273-0111 内線 343, 029-219-7373 直通



スポーツ指導者の充実と

スーパースターの誕生を夢見て

ひたちなか市体育協会 顧問 高野 拓

体協だより

「レッツスポーツひたちなか」の発刊により、

当協会の活動が市民の皆様にご紹介され、当協会に対する理解が一段と深まったことは誠に喜ばしいことであります。きつと、これからの当協会の事業推進に大きな力となるものと思われまふ。今後一層、市民の皆様のご支援、ご協力をいただくうえで、是非ともこの広報誌が市内の全家庭に配布され、情報の提供が徹底されるよう刊行部数の拡大を願っているところであります。

さて、当協会には、スポーツ少年団を含め 42 の加盟団があり、33000 人の会員が登録され、その他、中学校・高校などで部活動をしている子供たちは相当な数に上り、市全体のスポーツ人口は県内でもトップクラスにあると思われます。

また、スポーツ施設は市営の運動公園をはじめ、学校の体育施設などが整備され、さらに、県の中心的な施設である笠松運動公園も市内に設置されており、非常に恵

まれたスポーツ環境にあります。

スポーツ人口とスポーツ施設が整備された中で、残る問題はスポーツ指導者の養成と確保であります。指導者の養成は、一朝一夕にはいかないことでありますが、あらゆる機会をとらえて、指導者の育成と確保に努力していくことが当協会として最も重要な課題であります。現在、「いつでも」「どこでも」「だれでも」年齢は問わず自分のレベルにあつたスポーツ種目を選んで参加できる「総合型スポーツクラブ」が設置されておりありますが、ここでも中心となるスポーツ指導者の確保がまず必要なことであります。

そして、近い将来、このスポーツ指導者の充実が皆様の努力により達成された暁には、ひたちなか市からスーパースターの誕生も夢ではありません。全国的に活躍し、テレビや新聞などで報道され、国を代表する国際的なレベルのスポーツタレントが当市から出現することは、子ども達に大きな夢を与え、多くの人に感動を与えるはずでです。また、スポーツに対して一段と関心が高まり、スポーツの明るい話題が街全体で盛り上がり、



H23 オリンピックデーラン
オリンピックの入場行進

市民スポーツ活動が一層積極的に行われるようになるはずでです。一人でも多くの人がスポーツに親しみ、スポーツを愛好され、その中から専門的な競技スポーツに挑戦する若者が増え、国を代表するようなスーパースターが誕生してくれることを心から期待しております。

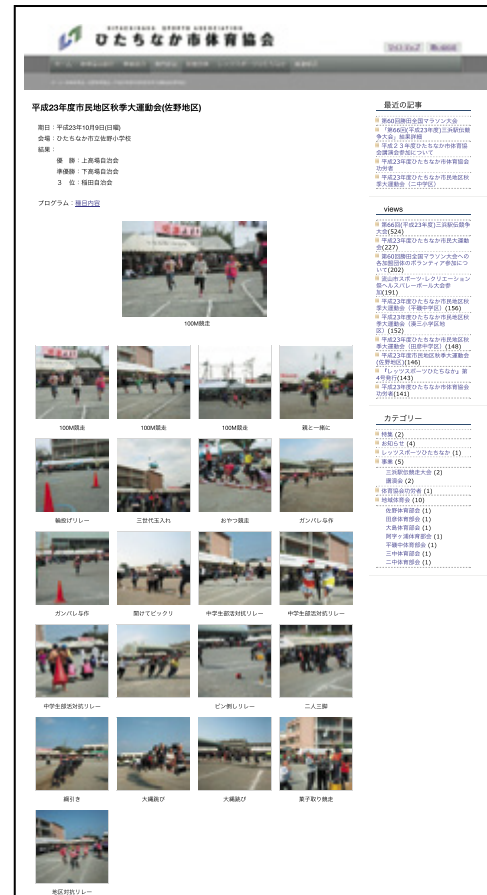
目 次

スポーツ指導者の充実	1 頁
体育協会ホームページの開設	2 頁
社会人リーグ特集	3 頁
オリンピックデーラン	4 頁
スポーツライト	5 頁
専門部だより	6 頁
スポーツドクターアドバイス	7 頁
H23 体育協会振興大会報告	8 頁

体育協会ホームページの開設



平成 23 年 11 月、当協会の活動状況を市民の皆様によりやすき情報発信し、スポーツにより楽しんでいただける環境を整え、生涯スポーツの振興を図ることを目的にホームページが開設されました。協会の紹介をはじめ、関連行事案内、イベントの申込みが出来るようになっております。



URL <http://www.hitachinaka-taikyo.jp/>

流山市スポーツ・レクリエーション祭 ヘルスポレーボール大会参加報告

平成 23 年 11 月 26 日、流山市生涯学習課の招待を受けて『流山市スポーツ・レクリエーション祭ヘルスポレーボール大会』（会場：流山市民総合体育館）に「前渡を明るく住みよくする会体育部会」選抜チーム（鈴木監督）が出場しました。市内からは他に「体育指導委員チーム」、「みなと waiwai クラブ」（総合型スポーツクラブ）が参加。

いつも練習をさせてもらっている「みなと waiwai クラブ」に負けず残念でしたが、初めての大会で結果が残せて、たいへんうれしく思っています。現在は、体育部会員主体のメンバーですが、今後は「前渡地域」の参加希望者をどんどん受け入れてヘルスポレーボールの普及、地域の活性化につなげたいと考えております。

大会出場チーム総数は、57 チーム。選手権の部、交流の部（市内、市外）と分かれており、市内招待チームは全て「交流の部（市外）」のエントリーでした。

結果は、以下の通り。

【準優勝】

みなと waiwai クラブ

【3 位】

前渡を明るく住みよくする会
体育部会選抜チーム

【4 位】

体育指導委員チーム
（広報委員 黒澤記）

◆前渡を明るく住みよくする会体育部会選抜チーム・鈴木監督談◆
平成 23 年 9 月から週一回練習を行っています。決勝リーグでは、



前渡を明るくすみよくする会体育部会選抜チーム

特集 社会人リーグ観戦記

第36回日本ハンドボールリーグと女子バスケットボール第13回Wリーグのひたちなか大会を観戦して

ひたちなか市総合運動公園は、我が国でも有数の充実した競技施設を誇り、プロ野球のオープン戦やサッカーJ2の試合などがときどき開催されているのはご承知のとおりですが、体育館の方でも男子ハンドボールや女子バスケットボールの社会人リーグが開催され、我が国のトップレベルのプレーを観ることが出来ます。そこで、今回はこれらの社会人リーグの様子を特集することにしました。

第36回 日本ハンドボールリーグ ひたちなか大会

第36回日本ハンドボールリーグひたちなか大会が11月20日に総合体育館で2年ぶりに開催されました。前大会までは1試合のみでしたが、今大会は2試合が組み、しかも前年度1位の大崎電気と2位の湧永製薬の試合が観戦できるという好カードでした。

リーグ戦の前にチャレンジャーツチとして県央・県北地区の高校生10チームによる白熱した対戦が行われました。

リーグ戦第1試合は湧永製薬VS北陸電力が行われ、地力に優る湧永製薬が終始優勢に試合運び37対26と危なげなく勝利しました。試合中はスピードのある攻撃

や華麗なパス回しに観客席から感嘆の声と歓声が聞こえ、とても盛り上がりました。

第2試合は豊田合成VS大崎電気が行われました。序盤は豊田合成が優位に試合を運ぶ中、大崎電気がベンチスタートだった宮崎大輔選手を投入すると、流れが一変し、大崎電気が逆転して40対33で勝利しました。さすが日本代表のエースです。嫌な流れを一気に変える力には驚きました。

両試合とも選手入場の際には、地元小学生のハンドボールチームがエスコートキッズを務め、憧れの選手と手を繋ぎながら入場し会場を和ませていました。

なかなか真近で国内最高峰のリーグ戦を見る機会が少ないので、



湧永製薬（赤）vs 北陸電力（白）の熱戦

高校生も含め、子供たちが目を輝かせながら見ている姿が印象的でした。再び開催されることを切望します。

さて今年はロンドンオリンピックが開催されますが、ハンドボールは世界最終予選が4月に男子5月に女子が行われます。今回の4チームの中にも多くの日本代表が在籍しており、是非ともオリンピックの出場権を獲得してハンドボール界を大いに盛り上げて欲しいと願っています。

（広報委員 古川記）

女子バスケットボール 第13回Wリーグ ひたちなか大会

女子バスケットボールの日本リーグは、Wリーグ（上位8チーム）とW1リーグ（下位5チーム）の2部制をとっており、地元の日立ハイテククーガーズは昨年度の入替戦に敗れて現在はW1リーグです。それぞれ、4回戦総当たりでのリーグ戦を行い、Wリーグでは上位4チームでプレーオフ戦をやって優勝チームを決定しています。W1リーグはリーグ戦の成績がそのまま順位です。



新潟（オレンジ）vs 三菱電機（白）の熱戦

さて、12月3日（土）の第13回Wリーグひたちなか大会は、新潟アルビレックスBBラビッツVS三菱電機コアラーズの第3戦目でした。立ち上がり三菱が0対10とリードしましたが、新潟もジリジリと実力を発揮して高橋礼華選手などの活躍で前半終了時には30対28と逆転しました。しかしながら、後半に入り、交替選手がほとんどいない新潟に疲れによる決定力不足が目立ち始め、選手層の厚い三菱にジワリジワリ突き放され、最後は42対65と大敗しました。新潟は廃部となった日本航空女子バスケット部を引き継いだチームであり、今後の選手補強がカギとされます。

（広報委員 蝦名記）

H 23 オリンピックデーラン ひたちなか大会

毎年恒例となっているひたちなか大会が、11月27日、総合運動公園で行われました。この大会はオリンピック（オリンピック出場経験者）と一般市民が、ジョギングを中心とした様々なプログラムと一緒に楽しみ、オリンピックを身近なものと感じてもらうことを目的として実施されています。

この日は、荻原健司さん、千葉真子さん他、6人のオリンピックと一緒にジョギングや女子サッカー・新体操・卓球・陸上競技のスポーツ教室を楽しみました。



未来のなでしこたち

チャレンジ体力テストのコーナーでは、リリー保育福祉専門学校スポーツ健康学科の学生さんたちが授業の一環として参加者へのアドバイスやお手伝いをしていました。スポーツする人を支える『裏方さん』の存在も頼もしく思えました。



オリンピックを夢みて（新体操教室）

◆参加者数	延
◇ウォーキング	1680名
◇ジョギング 5 km	282名
◇ジョギング 3 km	85名
◇新体操教室	52名
◇卓球教室	30名
◇女子サッカー教室	50名
◇体力テスト	50名
	281名

（広報委員 齋藤・高場記）

チームの絆を一本の襷に込めて 第66回三浜駅伝競争大会

今回で66回を迎える伝統と歴史ある駅伝大会が、12月4日、ひたちなか市和田町の市漁村センターを発着点に、師走の好天の下、県内外からの多数の参加チームにより繰り広げられました。「がんばろう大洗」「がんばろうひたちなか」をスローガンに過去最多となる7部門、161チーム960人が那珂湊、平磯、磯浜の三つの浜を一本の襷を胸に力走しました。

本年度は、東日本大震災の影響で、ひたちなか市と大洗町が甚大な被害を受けたことにより、コースの一部変更を余儀なくされました。現在も4メートルを越える津波による被害がコースの至るところに数多く残っております。

大会結果は、中学男子の部では峰山中、中学女子の部では峰山中バスケットボール部、高校男子の部では水戸工業高校A、高校女子の部では常総学院高校、一般男子の部（1部）では茨城大学陸上競技部、一般男子の部（2部）では日立製作所、一般女子の部では美野里クラブでした。また、2年ぶりに出場した日立製作所チームが16回目の総合優勝に輝きました。

今大会に参加された石巻RCチームから「今年は三浜駅伝大会が

開催されるのかどうか、とても心配でした。練習が十分ではありませんでしたが、全力で走ることができました。来年も是非参加します。」という感想が寄せられました。また、那須塩原市陸上競技会チームから「沿道で応援をする市民の方々から大きな拍手と暖かい声をいただき、最後まで元気に走ることができました。」と感想を頂戴しました。

チームの絆を一本の襷に込めて、ゴールまでつなぐこの三浜駅伝大会から、復興への力強いエールをいただきました。

（広報委員 助川記）



襷をつないで目指せゴール 駅伝のスタート

ス ポ ッ ツ ラ イ ト

☆ いろいろな場面で スポーツを楽しんでいる方々に スポットライトをあててみました ☆

ひたちなか市 レスリングスポーツ少年団

団長 清水 敏治

「頭を上げる。前に出る。攻める。」いつも練習で、かけることばです。レスリングは勝ち負けがとてはつきりしています。大会でなんとか勝たしてあげたいと思うと、ことばにも力が入ります。勝つて戻ってくる時の子どもの笑顔は、最高なのです。

レスリングは、今でこそ、オリンピックなどで吉田選手や伊調選手の活躍により世間に認められてはいますが、少年団発足当時の昭和 55 年頃は、プロレスと混同されていました。危険だ、ケガが心配だ、子どもにそんなことさせるのかと本気で怒る人など、まだまだ理解されていなかったのです。

指導方法のマニュアルもなく、小学生にブリッジさせて大丈夫か、タックルはできるのかなど、手探りの状態であり、自分の経験だけで教えていました。水戸市や大子町にも少年団が発足して、合同練習会や情報交換しながら、徐々に軌道に乗せてきました。

昭和 59 年、全国少年レスリング連盟が発足し、記念すべき第 1 回選手権大会が高萩市で開催されました。第 2 回大会では優勝者を 1 名出すことができました。平成 12

年の大会では女子が 2 名優勝し、県内では初めて団体の部で 3 位入賞を果たしました。

平成 23 年 12 月、ロンドンオリンピックの国内選考会の開会式で、日本レスリング協会より今までの活動が認められ、少年クラブチームとして表彰を受けました。

現在、団員は中学生 2 名、小学生 18 名（うち女子 4 名）で活動しています。技の習得が中心ですが、勝つことだけでなく、あいさつをはじめとした礼儀作法なども大切にしています。最近では、保護者にも練習に参加してもらい、親子で汗を流しています。また、発足当時から続いている懇親会やバーベキュー大会など、団員や保護者・指導者との親睦も図っています。指導者・保護者が一体となつて子供たちの笑顔のために活動しています。



レスリングスポーツ少年団の強者たち

『高齢者クラブ』の活動

高齢者クラブ連合会 保健体育部

高齢者クラブの活動は、戦後、高齢者が自らの健康を維持し、生きがいを高め、奉仕などの社会活動を通じて、地域を豊かにする活動として積極的に展開されてきました。

実際の活動は、社会奉仕活動をはじめ、スポーツ活動や文化活動をバランス良く実施しており、地域住民の誰もがこれらの活動に参加することで、喜びや生きがいを見出せるものになっています。

現在では、全国に 11 万 7 0 0 0 クラブ、7 1 8 万人の会員を擁する組織となっています。

茨城県：3,913 クラブ 140,878 人、ひたちなか市：73 クラブ 3,975 人 連合会組織有

スポーツ活動の一例を挙げますと、戦術や戦略を重視したゲートボールやペタンク、輪投げ、そして、人気がでてきたグラウンドゴルフなどを取り入れ、『いばらきねりんんスポーツ大会』や全国大会である『ねりんんピック』でも会員は活躍しています。

これらの競技は、高齢になって年齢に応じたスポーツを媒体として、高齢者の引きこもりや孤独感を解消する役割を担い、『動く喜

び』や『動ける幸せ』を仲間とともに感じられるものになっています。



会長杯スポーツ大会より
「みんなで準備体操 850 人！」

また、大震災や原発事故があった昨年は、会員同士の絆を強く感じることができました。全国老人クラブ連合会の呼びかけにより、被災地には全国から義援金と会員手作りの『元氣袋』（歯ブラシ、石鹸、タオル等）が続々と届けられ、自ら被害を被ったひたちなか市でも、救援拠金を集め被災地救援の一助としました。

簡単に紹介させて頂いた高齢者クラブの活動ですが、高齢化が進む中、地域社会における一人ひとりのつながりを大切に今後も活動を続けます。

（市高齢者クラブ連合会事務局
社会福祉協議会内

☎ 0 2 9 - 2 7 2 - 4 1 0 6

専 門 部 だ よ り

ソフトボールの健全な

発展を願う

会長 飛田 政義

ソフトボールの誕生は、1887年アメリカのシカゴで生まれたという説が有力です。わが国では、1920年ころ学校体操の遊戯として紹介されたのが始まりで、その後、大正末期から現在まで長く親しまれてきました。

昭和24年3月に日本ソフトボール協会が設立され、昭和25年の第5回国民体育大会の正式種目に加わり、国内で各種目大会が行われるようになり、競技人口も年々増えてきました。昭和49年の秋の国民体育大会ソフトボール競技は当時の勝田市で開催されました。

また、2008年北京オリンピックで日本女子チームが大活躍し、見事に金メダルを獲得したことは、記憶に新しいことと思います。

ソフトボールは、ちょっとした広場があれば、手軽に楽しめるスポーツです。野球との大きな違いは、ボールが大きい、塁間・投球距離が短い、投手の投球法が違つ、投手の手から球が離れるまで塁を離れることができない等であり、ソフトボールの試合は守備型のゲームと言われています。よって、選手は俊敏な動作と瞬間的な判断力が要求されます。

市内では、スポーツ少年団、中



一球入魂 ソフトボール競技

学校女子、シニア及び地域や企業の同好者によりチームが結成され、老若男女を問わず幅広い世代の人々がゲームを楽しんでいます。そして、各種大会において、各自の目標に向かって熱戦を繰り広げています。

みなさん、健康の保持増進や同好者の絆の強化、そして競技力の向上を目指して、ソフトボールにチャレンジしてみませんか。どうぞ、新たにチームを結成し、登録をしてください。

また、ソフトボール競技の発展には、立派な審判員が必要です。公認審判員制度は、第1種・第2種・第3種に区分されており、現在、当協会の公認審判員が不足している状況です。審判に関心をもたれる方の連絡もお持ちしています。

『空 手 道』

理事長 武石 良男

空手道の源流は、14世紀末に中国で発展した「拳法」です。それに伝統と研究が加わることで更に洗練されて、日本（沖縄）固有の武術として発展してきました。本土に伝わった後には、その歴史の中で多数の流派・会派に分かれ、それぞれに独特の形態ができてきました。

空手道は、大きく二つの競技に分かれています。相手の動きを想定した基本動作（立ち方・突き・蹴り・受けなど）を組み合わせて構成した『形』と、相対する二人が相手の動きに応じて互いに自由に攻め合い、攻防の技能を競い合う『組手』の二つです。

今日、武道や格闘技というよりも、スポーツとして体系化されている空手道。このスポーツには二つの特性があげられます。

一つは、身体的な発育にもたらす効果です。基本動作・対人的技能の練習において、筋力・敏捷性・持久力・柔軟性などを養うことができます。もう一つは、精神的な発展への効果です。一瞬を競い合う局面を経験することで、状況判断の確さ・決断力、また、武道ならではの礼儀作法を養うこともできます。



三支部による空手道スポーツ少年団夏季合宿

基本動作や対人的技能を身に付け、さらにそれらを使って練習や試合ができるようになると、子供たちは空手道の楽しさや喜びを味わい、より一層熱心に稽古に励むようになります。子供たちの熱意を受けて、基本重視・課題達成の徹底のあまり、鍛錬的傾向が過剰に強くなってしまいがちです。我々指導員は、子供たちが空手の意義を忘れることなく、そして自発的・自主的に自身の課題達成や苦手克服に取り組むことができるような雰囲気作りを常に意識しながら指導にあたっています。

生涯にわたって実践しやすい内容を持っている空手道。今後も空手道の真の醍醐味を伝えるべく、指導に力を注いで参りたいと思います。

新たな歴史に向けて 第 60 回勝田全国マラソン大会

1 月 29 日、石川運動ひろばをメイン会場に、「フルマラソン」と「10 km」の 2 種目 14 部門で全国各地から大会史上最多の 17777 人の市民ランナーが「勝田の風」の如くさわやかに、勝田の大地を駆け抜けました。昭和 28 年にマラソンの普及を目的に始まった本大会も 60 回の節目を迎え、すばらしい天候に恵まれ、全国 44 都道府県から健脚自慢のランナーにより盛り上げられました。

開会式では、日立製作所女子陸上競技部の 8 人により、「東日本大震災で学んだあきらめない気持ちと人間の力を信じて最後まで前を向いて全力で走りきる」と力強く選手宣誓が行われました。また、60 回大会を記念して 25 回以上出



正に長蛇の列、マラソンのスタート

場した 5 選手に「永年出場者」として表彰がありました。千葉淳さんは、被災地の宮城県大崎市から 26 回目の出場で、昨年の三浜駅伝にも参加されていました。

この大会は、市長を先頭に市を挙げての温かいおもてなしの心で支えられ、歴史の重みを感じます。



おもてなしの心で、ドリンクサービス

なお、今大会も大会運営の多くの業務を体育協会の各専門部や体育指導員の 515 人が支え、市との協働のまちづくりに貢献しました。これは、大会スタッフ約 1600 人の 1/3 に当たります。主な支援業務を記すと、受付、本部補助、選手誘導、交通整理、参加賞引換、荷物預かり、更衣テント監視、コース誘導、フィニッシュ整理、フィニッシュドリンク、参加賞引換券紛失者対応などであり、隠れた「勝田の風」になりました。

(広報委員 助川・蝦名記)



スポーツドクターアドバイス

勝田病院 整形外科 浦川圭一先生

スポーツと腰痛

スポーツを楽しむ人々を悩ますもののひとつに、腰痛があります。病院に行つて調べても特に異常はないと言われる疲労性や筋緊張性の腰痛について話します。ゴルフや野球、バレーボールなどの競技者に多いのですが、意外にも、腰痛に良いといわれる水泳をやる方にも多いようです。原因は、知らないうちに疲労が溜まつていたり、誤ったフォームを続けたり、偏った筋肉トレーニングによって筋肉のバランスが崩れて腰痛が発症するようです。

私も、ゴルフで「飛ばしたい」とフォームを考えずに力いっぱいスイングして腰を痛めました。どうやって治そうと調べましたが、正にいろいろな治療法がありました。でも、いろいろな治療法があるということは「これだ! というものは無いんだ」というコトもよくわかりました。

私の場合、原因はおそらく腰椎の関節と、筋肉の付着部周囲と判断して、シップや痛み止めの薬で症状を軽くしてから、ストレッチ、特に股関節周囲、体幹を十分時間

をかけてやりました。その後、近くのスポーツジムで、インナーマッスルを中心に筋力強化しました。最初の一ヶ月は、なかなか効果がでませんでした。二ヶ月を過ぎた頃より腰痛が無くなっているのに気づきました。間違つてなかった! 時間をかけていなかったただけだと気づきました。

軽く痛みを感じるくらいストレッチを、少し汗をかくくらい行ない、お風呂でリラクゼーション。そして、それを続ける事ができれば、腰痛を含め疲労性の疼痛は、よくなると思います。しかし、うまくいかなければ、やはり病院の受診を勧めます。検査しても異常が無くて、症状が強い腰痛は心因性の可能性があります。何ごとにおいても精神的な安定は大切です。ウォーミングアップはケガの防止に、クーリングダウンは疲労を残さないために、十分時間をかけてストレッチしましょう。そして、これらを意識してスポーツを楽しみましょう。



平成 23 年度体育協会振興大会報告

本年度のひたちなか市体育協会振興大会が、平成 24 年 1 月 8 日（日）にホテルクリスタルパレスで開催されました。各団体から 432 名が出席し、会長挨拶、来賓挨拶に続いて、本年度の功労者（個人 39 名、団体 1 団体）・褒賞（個人 2 名）が表彰されました。また、受賞者を代表して合気道連盟の神原実さんが謝辞を述べられました。その後、レセプションに移り、大島コミセン地区地域づくりの会・副会長の吉田実さんの乾杯で始まり、ココナッツ石井さんによるトランペットの演奏が行われ、田彦中学区地域づくりの会会長稲田周三様の万歳三唱で盛大な会を閉じました。

本年度の功労者は、次のとおりです。

◇加盟団体推薦

野球連盟

ソフトボール協会

サッカー協会

卓球連盟

陸上競技協会

空手道連盟

柔道連盟

ひたちなか地区剣道連盟

弓道連盟

合気道連盟

テニス連盟

ゴルフ連盟

ダンススポーツ連盟

勝田なぎなたクラブ

インディアアカ連盟

ゲートボール連盟

レクリエーション協会

健康体操クラブ

太極拳連盟

那珂湊相撲連盟

グラウンド・ゴルフ協会

一中地区体育部会

二中学区体育部会

前渡体育部会

佐野体育部会

埴 英司

工藤 国雄

八鍬 克延

上野 祐樹

杉山 伸盛

大貫 英次

山田 太一

澤畑 佳男

鈴木 裕美

神原 実

中島 清和

篠田 容子

田沢 正子

佐藤 順子

根本 敦子

武藤 三郎

幕内 豊子

江上 猛

奥秋 紀子

国藤 清美

渡邊 新平

堀江 博志

多田 三雄

黒澤雄次郎

安島 由文

〈団 体〉

ソフトテニス連盟

茨城工業高等専門学校

ソフトテニス部

◇スポーツ少年団種目別部会推薦

サッカー部会

ソフトボール部会

柔道部会

合気道部会

軟式野球部会

バレーボール部会

卓球部会

ミニバスケットボール部会

バドミントン部会

◇会長推薦（褒賞）

レスリング

陸上競技協会

岩渕 尚紀

小泉 清美

大内 和明

青柳よし子

時田 保

工藤 正和

黒澤 重雄

浅畑 健

桑名 好美

小沼 徹

国谷 強

大島地区体育部会

田彦中学区体育部会

湊中学区体育部会

平中学区体育部会

阿中学区体育部会

清水 正広

久保田寿久

出沼 行雄

根本 浩喜

川崎 清一



（広報委員 蝦名記）

編集後記

穏やかな新年を迎え、今年こそは平穏であります様にと祈ったのも束の間、日本列島を厳しい寒気が襲いました。それでも、徐々に太陽の陽射しと風の香りに春の訪れを感じています。本誌の地域スポーツ情報が、皆様の健康づくりとスポーツ活動の推進にお役に立てばと願っています。（高場）

【体協だより編集委員】

委員長	高場 恵子
委員	蝦名不二夫
委員	黒澤 里志
委員	齋藤 純子
委員	清水 敏治
委員	助川 保彦
委員	古川 由治



ココナッツ石井さんのトランペット演奏